

【20141203版 群読用】

はるかな時を越えて

― 江戸から来た人 ―

洲 浜 昌 三

女全

それは何か

洲 浜

はるか何百年の時の大河を越え
今も、心と心を温かく結ぶもの

全員

それは何か

松本

今を去ること、およそ二百八十年前

石見銀山の代官として

はるばる江戸から石見の国へやってきた人 ―

全員

井戸平左衛門正明まごめさむら

山本

あなたは二十一歳で井戸家の養子になったが

その年に養父を失い

さらに妻にも先立たれて再婚

二十六歳で、江戸城の火事の警戒に当たる

「表火之番」の役に任命され

三十一歳のとき、勘定奉行の役人になり

三十年間 勘定方の平役人を黙々と勤め

享保十六年、一七三一年九月二日、六十歳のとき、

大岡越前に推挙され、徳川吉宗の命を受けて

石見銀山・十九代目の代官に任命された

山本

花のお江戸を発ち、十数日かけて東海道を下り、

洲 浜

時は

姿も見せず

音もなく

足跡も残さず

すべてを消していく

何百年、何千年という時の流れは

この私も、私が愛する人たちもすべて

跡形もなくこの地上から消してしまおう

はるかな時を越え

時とともに語り継がれ

時のなかで鮮やかに生きていくもの

男 全

それは何か

洲 浜

冷酷な時が消せないもの

非常な時さえ残していくもの

大阪から船で瀬戸内海を渡って尾道へつき、

石州銀山街道に入って中国山脈の難所をいくつも越え、

三次を過ぎて険しい山道・赤名峠を越え

病弱な体を駕籠に揺られて

石見の地へ入った時

あなたの目に写ったのは何だっただろう

目の前に迫ってくる山また山

谷や山を縫う石ころだらけの曲がりくねった道

急斜面に重なる狭い畑と田んぼ

千茅のように突っ立ち 風に揺れる稲の穂

江戸から三百数十里、およそ千二百キロ

三十日近くかかる長い道のりを

駕籠に揺られて大森へ着いたとき

高齢のあなたは、疲れ果てて、

病人のように衰弱していましたね。

あなたの病気の治療をしたのは大田の中島見龍医師。

あなたが到着するのを待っていた代官・海上弥兵衛が

すぐに医者の手配をし、あなたは元気をとりもどした。

海上弥兵衛が送った感謝状が

大田の中島医院には、今もありますよ。

感謝状の日付は十月二日、

江戸を九月十日ごろ出発したにちがいないあなたは、

律儀にもほとんど休まずこの石見へやってきたのですね。

このとき、すでに西日本一体には天候不良と凶作がつづき、大飢饉が迫っていた。

次の年、

江戸三大飢饉の一つ

享保の大飢饉

空は晴れず、霧のような雨が何ヶ月も大地を閉ざした

雲のように飛んで来たウンカやイナゴに稲は食い荒らされ

農民は草の根を食べ、木の根を探して野や山を歩き

西日本のあちこちの村では餓死するものが相次いだ

「九十六万九千人が餓死した」

と「徳川実記」は記録している

「津和野領内の餓死者、一万一千百四十一人」

と「島根県史年表」にある

「餓死者、八千六百四十四人」

と広島藩の記録にある

各地の代官の報告を受けて、

幕府も救援のために、何度か米を送ったり、

家畜の飼料や種籾を買うために銀を貸し与え手を差し伸べた。

あなたは石見銀山の村々にこんな高札たかざしを立てた

田中

「米や金銀にゆとりのある者は

松本

困っている者に恵み貸し渡ししてほしい
貧しい者を思いやつて

食べ物節約し、余った分をわけるような心遣いをしてほしい」

山本

あなたは江戸幕府へ、その惨状を報告した。

江戸幕府の勘定方として、三〇年間、財政や年貢を管理し、
地方の視察をして農村の事情にも詳しくあったあなたは、
次々と村人を救うために何度も手をうった。

吉川

「種籾や米の無利子貸し付け」

田中
松本

「年貢米の減免や免除」

山本
女全

「百日間にわたり一日男子米二合 女子一合の貸し付け」

女全
吉川

「人民一同大喜せしなり」

川本町 光永寺に残る文書には、こうしたためてある。
徳川幕府の記録書・「徳川実記」は

吉川
全員

石見銀山領について、こう書き残している。
「夫食行き届き餓死人、これ無き由」

田中

「食べ物が行き届き、飢え死にした者は、いないという」

あなたは大森の榮泉寺で、養父の供養をしているとき
薩摩から来た僧に出会った。

薩摩では「唐いも」を食べるといふ話を聞き

あなたの手足となって尽くした手代・伊達金三郎を薩摩にやり
苦勞して六十キロの「さつまいも」を取り寄せ

米の収穫高百石につき 八個のいもを分け与えて植えさせた。
すでに七月に入り、植える時期も過ぎていたこともあり、
育て方も知らず ほとんどが腐ってしまったが

福光村の松浦屋与兵衛が植えたものが育って冬を越し

春に芽を吹いたという

日照や痩せ地に強く

年貢がかからない「さつまいも」は

石見の村々に広がり

出雲や隠岐に広がり

鳥取に広がり

山口・広島・岡山に広がっていった。

甘藷先生といわれた幕府の学者・青木昆陽が

関東地方で「さつまいも」を広めたのは三年後のこと、

あなたの「先見の明」は、どこで養われたのだろう。

享保十八年四月

重い病におかされた体を駕籠に乗せ

あなたは二年しかいなかった大森の代官屋敷を後にして

備中笠岡の陣屋へ駕籠で旅立って行った
野山に、新緑が芽生え、桜の花が舞い落ちる道中で、
村々の農民たちが、手を合わせて涙を流し、
無事を祈って別れを惜しんだにちがいない。

全員

いまでも村々に残るその数

五百基以上

貧しい庶民の手で

洲浜

あなたの病状は悪化し、
各地から十三人の医者が招かれ診察したが、
その中に邑智郡築瀬やなせの名医・錦織玄秀もいた。

こんなにも多くの記念碑を建ててもらった人が
世界中にどれだけいるだろうか

五月十四日朝の診断で、こう書き残している。

松本

「寒気さむけで体が震え、腹が硬く、手足がむくみ、咳が止まらない」

あなたは
幕府に無断で米倉を開けたのでおとがめを受け
笠岡の陣屋で切腹したともいわれる

山本

一ヶ月後の五月二十六日

山本

あなたは、笠岡の代官所で永遠に帰らぬ人となった

過労のために病気になり
亡くなったともいわれる

吉川

その年十一月 幕府は飢饉に尽くした各地の代官を表彰した

吉川

石見銀山では、後任の代官・布施弥市郎に銀五十枚が授けられた

責任をとって切腹したが
お家断絶を恐れた周囲の者が、

田中

五十年後 (全員)天明の大飢饉

病死だと偽って幕府に届けたともいわれる

松本

百年後 (全員)天保の大飢饉

田中

反骨心旺盛な石見の人には

山本

あなたのまいた種は

切腹説がびったりくるのですが

どんなにたくさんの命を救っただろう

ほんとうはどうだったのですか

井戸平左衛門正明殿

全員

吉川

人々はあなたへ感謝し

洲浜

あなたの徳をたたえるために「頌徳碑」をたてた

あなたが岡山の代官所で、寒気と咳に悩ませながら

養子の息子に書き残した遺言状に
こんな言葉がある

「第一の心掛は 慈悲を専らにし

人を見捨てず 家来には情けをかけ

一時の腹立ちで人の命を取るようなことを

してはならない」

吉川
それから

田中
それから

松本
それから

山本
腹の痛みは もう治まりましたか

山本
大森へ来た代官と奉行の数、五十九人

洲浜
はるか二百八十年の時を越え

あなただけは今も

昨日の人のように庶民の心に生きている

松本
石見の人たちが

あなたにつけた名前

全員
「い・も・だ・い・か・ん」

松本
どうですか

この名前

山本
「名譽ある江戸幕府の代官を、いも呼ばわりするとは、

不届き千番なり」

松本
とご立腹ですか

(平成二十六年十二月六日、今までの作品を修正追加統合。

更に詳しく確かな資料を(錦織玄秀、高野寺の飢饉の記録、

遺言状など)追加した方がいい場合は検討する。 洲浜昌三)

20141206